

# 第10回江南市市民協働・市民活動推進協議会 会議要旨

日時：平成22年4月26日（月） 15時～17時

場所：市民・協働ステーション 大会議室

## 1 議題

### (1)江南市地域まちづくり補助金について

#### ◇平成21年度江南市地域まちづくり補助金事業報告会について

○平成21年度江南市地域まちづくり補助金事業報告会で行ったアンケートの結果は別紙のとおり

※区・町内会や行政関係者の出席者が不在。「地域」や「連携」といった補助金の主旨を実現するため、対策を検討する必要がある。

※周知は、広報こうなんと各団体あてに直接郵送した案内が効果的であった。

※NPO・ボランティア関係者の中には、地域課題に気づき、自分達の力で地域課題を解決（地域まちづくり）しようと考えている方が多くいる。

※地域まちづくりに興味を持たない様々な主体をどう巻き込んでいくか、広げる方法を検討する必要がある。

※決算報告を公開してほしいとの意見があった。

※様々な場所（市民まつり等の人が集まる場所）で実施事業を発表し、当補助金のPRを行うべきである。

※他の団体とつながり、事業が広がり始めたところで、補助金が無くなると継続が難しい。長い目で見守る制度にしてほしい。

○地域を主体にした広がりには期待するのではなく、実施事業を通して当補助金や地域まちづくりに関心を持ってもらい、市内に広げていく方策を検討する。

⇒・様々な場所で実施事業をPRする機会を設ける。（市民まつり等）

・実施事業に関わった地域の人に、報告会の案内をする。

○継続して事業が実施できるようなサポート、流れを検討する。

⇒・単年度申請のみしかない現状を考えると、2年度目以降も活用される制度として当補助金を見直す必要がある。

・赤い羽根募金、モリコロ基金など、他の制度と関連付けした補助金説明会等を行い、他の制度との住み分け、流れをつくる。

○決算報告の公開を検討する。

○実施団体同士のつながりをうむ機会を検討する。

#### ◇平成22年度江南市地域まちづくり補助金補助対象事業について

○次の4事業を平成22年度江南市地域まちづくり補助金補助対象事業として決定し、広報4月号に掲載した。事業の日程について協議会にも伝えていくので、共に経過を見守っていただきたい。

- ① 治水の遺構「忠平猿尾」周辺の自然保護と散策路整備事業
- ② 緊急時 安心“水の隣組”マップ作り
- ③ 布袋駅舎保存
- ④ 共に考える地域の小児医療 ～広げよう子どもの笑顔～

## (2) 市民・協働ステーションのあり方について

### ◇「市民協働を広める会」主催の講座について(反省、次回予定)

○第2回話し合いの輪で行ったアンケートの結果は[別紙](#)のとおり。

※周知は、各団体あてに直接郵送した案内が効果的であった。また、知人からの誘いにより参加した方も多く、顔と顔を合わせて思いを伝える方法は最も効果的な周知方法だと思う。

※話題を提供したいと感じている方が多いことから考えると、地域の課題に気づき、問題意識を持っている人はいることがわかる。

○第3回話し合いの輪(8月第1月曜日)を実施する際は、アンケートの質問内容を検討する。

### ◇市民・協働ステーションリニューアルに向けて

○周知方法について、広報こうなん、市HP、各施設でのチラシ配架に加え、NPO・ボランティア団体へは、直接手引きを郵送する。

○常駐職員がいなくても相談が受け付けられるよう、「相談受付票」を作成してはどうか。記入していただいた方には後日連絡することとする。

○貸棚、貸レターケースの運用方法を掘り下げて検討する。

⇒・応募期間を設ける(7月号広報掲載で7月下旬応募)。

- ・レターケース番号の明記がない手紙、ファックスについては、事務員が融通を利かせて届け、それでも不明なものを入れる「不明ボックス」を設置する。
- ・登録団体は、団体の活動に関するチラシ等を各団体のレターケースに入れることができることとする。その際は、事務室にチラシを添えて申請することとする。
- ・不明ボックスに長い間放置してある手紙、ファックスについて、処分する期限を設け、断りを謳う。

## 2 その他

○補助金制度の活性化、市民・協働ステーションの有効利用を目指し、「ボランティアによるまちづくり応援団」を作ってはどうか。補助事業の現場に出向き、実施状況を取材し、広報か独自の情報誌に掲載することで市民に伝える。待っているのではなく、地域に出ていく、入っていく姿勢が必要ではないか。広める会でも検討していきたい。